



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



8月号

メールマガジン登録で本誌記事や観光情報のデジタル版を毎月お送りします。

登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



令和2年7月豪雨被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。



デジタル森林紀行

(愛称: デジ森)

オープン!

デジタル森林紀行は、3ページに掲載 (乗越浄土：中部森林管理局 広報)

主な項目

- 本局のトピックス (令和2年7月豪雨災害への対応～ほか) P 1
- 国有林モニターのご紹介 P 4
- 各地からのたより (ふれあいの森植樹祭の開催～ほか) P 5
- 森林のお仕事紹介コーナー
 - ・「森林官からの便り」 (南信森林管理署 阿智森林事務所) P 8
 - ・「森林・林業界からの便り」 (木曾森林組合) P 9
- ☆ シリーズ「お役に立ちます国有林」第4回
 - ・ 既設治山ダムを活用した流木捕捉工の開発 (治山課) P 10
- ☆ 連載「木曾式伐木運材図会」の解説 (第4回) P 11
- ☆ シリーズ「ご当地自慢」 (富山森林管理署 世界遺産「五箇山の合掌造り集落」) ... P 12
- ☆ 新シリーズ「地域と繋がる国有林」 (第1回) TOGA森の大学校 P 13
- 各地からの花だより／編集長だより P 14

〈本局のトピックス〉

令和二年七月豪雨災害への対応
局緊急自然災害対策本部を設置

【企画調整課、治山課】

令和二年七月豪雨災害により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

◇中部森林管理局緊急自然災害対策本部の設置

今年の梅雨は、前線の停滞により長雨が続き、九州地方をはじめ当局管内の長野県、岐阜県等に大雨をもたらしました。特に七月七日から八日にかけての二十四時間雨量は、長野県松本市上高地で二一九リットル、岐阜県下呂市萩原町で四一四リットルと記録的な豪雨となりました。

中部森林管理局では、災害情報連絡室を設置し情報の収集を行ってききましたが、長野県、岐阜県において、土砂災害警戒区域に「警戒レベル5」が発表されるとともに、八日朝に大雨特別警報が発表されたことを受け、同日に中部森林管理局緊急自然災害対策本部を

設置しました。

そして、直ちに被災県・市町村へリエゾン（七月三十一日現在延べ七十二名）し、情報収集と「御用聞き」を行うなど被災地との連携体制を確保しました。

令和二年七月豪雨により、管内各地で家屋の浸水や、道路網の遮断による集落の一時孤立等の被害が発生しました。長野県内では、国道一五八号線松本市安曇地籍で土砂崩れが発生し、上高地内に観光客など三百名以上が一時取り残されたとともに、岐阜県内では、下呂市小坂町の飛騨川沿いの国道



第 1 回対策本部会議の様子

四一七号線が三〇〇メートルにわたり崩落するなどの被害がありました。

◇関係県との合同でのヘリコプターによる被害状況調査を実施

中部森林管理局では、関係県と合同で、ヘリコプターによる上空からの被害状況調査を、七月三日に長野県南信地域、十六日に同木曾地域及び岐阜県東濃地域、十七日と二十一日に同飛騨地域において実施しました。

その際、（国研）宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「だいち2号」の緊急観測により土砂移動が推定された箇所を踏まえて、飛行ルートを設定しました。

これまでの調査の結果、国有林及び民有林において新生崩壊や林道の決壊等が確認され、特に長野県木曾町の日義国有林においては、新生崩壊により崩落した土砂が沢沿いに堆積した箇所を発見しました。下流に水産試験場や別荘地もあることから、長野県及び木曾町とも協議し、土石流センサーの設置を緊急に行うとともに、今後の復旧工事の準備を急いでいます。

中部森林管理局では、この他の被災箇所についても復旧を急ぐとともに、近年、記録的な豪雨の発生が増加傾向にあることを念頭に置き、災害の復旧・予防に万全を期して対応してまいります。



飛行前の調査計画打合せの様子 R2.7.16



ヘリ調査中の機内の様子

GSSによる

森林保全管理の取組

【保全課】

中部森林管理局では、春から秋までの登山利用の最盛期や休日等に、人為的な植生荒廃等を防止するため、「森林保護員」(愛称「グリーン・サポート・スタッフ。通称GSS」)を雇用しています。

管内では、富山県、長野県、岐阜県内の二十の地域において、多くのGSSが活躍しています。国有林の中でも、特に登山者が多く訪れる地域において、巡視やマ



青空と残雪の穂高岳(上高地)

ナーの啓発、登山道整備(グリーンロープの設置・撤去、遊歩道の補修、看板設置)などを行い、豊かで貴重な森林生態系の保全に取り組んでいます。

今回は、立山地域(富山県/富山署)、上高地地域(長野県/中信署)、天生地域(岐阜県/飛騨署)における活動をご紹介します。

○立山地域では、ライチョウが孵化する7月中旬頃から、登山者が道を誤って植生帯を傷めてしまわないよう登山道の雪渓切りを実施しています。盛夏には立山地区協議会のパトロール員と共に登山者への声かけやゴミ拾いを行います。また、案内標識類の点検整備も大切な仕事です。

○上高地地域では、大正池から横尾までを中心に、焼岳や徳本峠の登山道の巡視も行っています。新型コロナウイルス感染症が収束すれば、外国人登山者が再び増加するかも知れません。多様化する登山者へのマナーやルールの啓発活動が、GSSの重要な役割のひとつとなっています。



資材運搬の様子と修繕された歩道(天生)

○天生地域では、地元の貴重な財産であり「岐阜の宝もの」にも指定されている「天生の森」の豊かな生態系を後世に伝えるため、地元のパトロール員とも連携し、現地発生材の循環利用を基本とした歩道整備等、人と森に寄り添った活動に力を入れています。

○取組の成果

上高地では、感染症流行前は、全体の三割を占める外国人登山者のマナー啓発として、多言語表記のトレーディングカードを配布したことで、外国人に、片言でも対応できるようになりました。

天生では、以前はぬかるみや急な登りが多く、足場が安定しない滑りやすい箇所がありました。長年にわたる地道な歩道作りの結果、少しずつ危険な箇所が解消され、快適に森の中を楽しめるようになりました。「よい森ですね」と声をかけてくださる方も多くなりました。

○今後の課題

ゴミの投棄と立入禁止区域での踏み荒らしが後を絶ちません。ライチョウ等の希少種を保護するため、ドローンの飛行についてのルール作りが必要な地域もあります。

また、コロナ禍でマスクをして登山を楽しむ方が増えています。熱中症のほか置き忘れ等にご注意のうえ、必ずお持ち帰りをお願いいたします。

中部局ホームページから、各地区で活躍されているGSSからの活動報告をご覧ください。

※今年度は、木曽署、南木曽支署管内のGSS活動は行っておりません。

GSSの活動は、以下のQRコードを読み込んでください。



デジタル森林紀行

(愛称：デジ森)



林野庁中部森林管理局

ようこそ！デジタル森林紀行へ

中部森林管理局では、当局ホームページに、ご自宅や外出中でもお気軽に森林が織りなす美しい風景を楽しむことができる「デジタル森林紀行（愛称：デジ森（もり）」を立ち上げました。

このサイトは、①風景の色をテーマにした「中部の森林色々(いろいろ)」②広報主任官のお勧めサイト③風景に関連する国有林サイト「林野庁及び各森林管理局（北海道、東北、関東、近畿中国、四国、九州）」へのリンク一覧で構成しています。

お気軽に美しい風景を楽しんで、心身ともにリフレッシュしませんか。

中部の森林色々(いろいろ)～風景の色をテーマにした写真館です～

テーマ「青」《青い風景》

テーマ「緑」《緑の風景》

テーマ「黄」《黄色の風景》

テーマ「白」《白い風景》

テーマ「ALL」《色にこだわらず！》

【ポイント！】色をテーマに分類することで、直感的に今見たい風景を探ることができます。



デジ森への入場ゲートは、
次のQRコードを読み込んでください。



【お問合せ先】

総務企画部 総務課 広報

TEL:050-3160-6513

E-mail : migoro@maff.go.jp

《URL》 <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/photo/dezitaru-shinrinkikou.html>

国有林モニターのご紹介



ペンネーム
「カメラ親父」さん (長野県)

◇自己PR(趣味や特技など)

それ程有りませんが、

- ・クルマとドライブ (運転歴五十数年、所持したクルマ二十台、単車数台)
- ・HAM (アマチュア無線) 運用歴四十五年、モールスは忘れました。
- ・カメラ収集と撮影…現在二つのサークル会員
- ・旅行…国内・海外問わず
- ・国内…利尻・礼文島、西表島まで
- ・海外…一〇〇以上の地域や国

・音楽鑑賞…広沢虎造、ビートルズまで

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

会社員現役時代(約五年前定年退職)には県産材(主に桧・赤松)を使用した建築部材(構造材、床材、羽目板、腰板など)の認証取得業務を行っていましたが、国有林については殆ど扱おうことがなく興味があり応募しました。

◇国有林に期待すること

- ・災害に強い国有林
- ・防災に役立つ国有林



清万採種園におけるカラマツ種子の増産に向けた取組

環状剥皮の実施

【技術普及課】

六月二十四日、東信森林管理署浅間山国有林にある清万採種園において、中部森林管理局の若手職員を中心に十二名が参加し、カラマツ種子増産に向けた取組として環状剥皮作業を実施しました。

環状剥皮作業は、着果促進のために、木の幹の表皮に切り込みを入れて皮を剥くことにより樹勢を低下させることで、生理的に着果増進に効果があるとされる技法です。

清万採種園は、昭和三十五年から四十五鈴の事業採種園として信州カラマツを主体とした精英樹クローンが配植され設定されたもので、山火事や園地の見直し等により、約五・七鈴に規模を縮小して現在に至っています。苗木の需要減少から約三十年間はほとんど整備されていませんでしたが、近年のカラマツ人工林の更新に不可欠である種子が不足していることを受け、長野県が若返りを進めている他の採種園の整備完了までの中継ぎとして、平成二十七年から整備を再開しています。



カラマツの幹の表皮を剥いている様子

この清万採種園では、園内路網整備、光環境の改善等と併せて、この作業を毎年数本から数十本、環状剥皮作業を実施してきました。参加した職員は、樹皮と形成層を剥き、木部には極力傷をつけないよう作業することに、思いのほか苦心し、また、「木をいじめる」という普段はあまり考えたことのない作業に戸惑いながらも、対象木が来年、たわわに着果するのを想像しながら、作業を実施しました。

※着果…花が咲いて実がつくこと

ふれあいの森植樹祭の開催

【北信森林管理署】

六月七日、信濃町しなのまちの黒姫山くろひめやま国有林において、ふれあいの森植樹祭を行いました。

この植樹祭は、戸隠とがくしふれあいの森協定地内において協定者の戸隠ふれあいの森森林整備協議会が主催となり毎年開催しています。

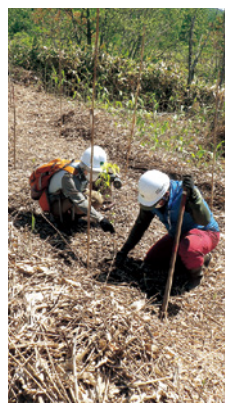
例年ですと協議会員の他にボーイスカウトの皆さんも参加し植樹を行っていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため当初参加予定であった約三十名が参加を見合わせたため会員とその家族十五名の参加でした。

植栽樹種はブナ、トチノキ、ミズナラ、オオヤマザクラの合計一一〇本を植樹しました。

水上協議会長のあいさつから始まり、北信署長からのあいさつと併せて植栽木の花言葉や樹木名の由来などを紹介し植樹を行いました。

植栽地は笹地でしたが、会員の皆さんが笹刈りを行うなど、事前

準備をしていただけいており安全に作業ができる作業環境の中、笹の根に苦勞しながら一本一本丁寧に植えていました。



植栽を行っている様子

今後は下刈作業を行うなど、本植樹祭のスローガンである「戸隠ふれあいの森に木を植え、鳥居川とりいがわの水源に緑のダムをつくろう」のもと森林整備を行っていく予定です。署としても協議会と協力し「戸隠ふれあいの森」の森づくりを協力していきます。



植栽後の記念撮影

五感を使って森林を体感！

（付知南小学校森林教室）

【東濃森林管理署】

六月二十四日「付知峡つけちきょう自然休養林」において、中津川市なかつがわしの付知南小学校五年生二十四名を対象に森林教室を実施しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により学校行事が減っているなかで、「森林教室は重要な教育カリキュラムとして位置づけされており、少しでも児童に体験させてあげたい」との先生方の強い思いを受け、マスクの着用や消毒の徹底、十分な間隔の確保など、感染対策や実施手順を調整したうえで実施しました。



森林のはたらきについて学習している様子

はじめに日本や世界の森林の状況と森林の持つはたらきについて、パネルと土壌模型を使って学習しました。「森林のはたらきって何かあるかな？」と聞くと様々な答えが返ってきます。中には「緑のダム」と答えた児童もいて職員の方が驚かされました。その後、四班に分かれて木曾越遊歩道きそこえゆうほどうを散策し、ヒノキやサワラの違いを目で見ても触っても感じたり、ミズメの枝の湿布のような匂いやキハダの皮の苦い味を体感したりと、五感を使って樹木の名前や特徴を学習しました。

午後からは、ラワンの種の模型を作成し、くるくる回りながら飛ぶ様子を観察し、上手に飛ばすことができるかと大きな歓声が上がっていました。児童からは「森林にはいろいろな役割があることが分かった」、「森林の中を歩いたり、種を上手に飛ばせたりできて楽しかった」などの感想が聞かれました。

当署としても、地域の方々へ森林の大切さを知ってもらえるように、これからも積極的に貢献していきたいと考えています。

「新しい生活様式」で 捕獲駆除委託を開始!

【愛知森林管理事務所】

六月二十日、地元設楽町^{しだらちやうりやうゆう} 猟友会との委託契約に基づく、「令和二年度ニホンジカ捕獲駆除業務」を開始しました。

今年度の委託捕獲初日は、新型コロナウイルス対策の「基本的感染対策」に加え、「日常生活を営む上での基本的生活様式」などに配慮し、地元公民館前で、監督員、スタッフ等の紹介の後、安全指導や業務などについて説明しました。

また、「ワナの見回り労務の軽減」を目的に実証していた、ワナ通報システムの改良を図った「ハイブリット型ICTセンサー」を試行することから機器の特徴や使い方を狩猟者の皆様に丁寧に説明しました。

※ 従来型ICTセンサーは、赤外線により、シカの挙動を感知し、通知するシステムでしたが、誤閏知等の通知もあつたため、それらの欠点を補う形でマグネット式での感知も兼ね備えており、より精度の高い監視が可能となっています。



シカの足跡などを観察している様子

現地では猟友会員の経験と勘を研ぎ澄ませ、軽トラでゆっくり移動し、シカの足跡など観察していきましました。幸いにも前日の降雨により、シカの足跡や動きが推察しやすい条件であつたため、シカがよく通るケモノ道にワナを手際よく設置することができました。

今後、地元猟友会と連携し、個体数調整に取り組み、ジビエ利用など地域振興にも寄与しつつ、地域全体でシカ被害の低減に努めていくこととしています。

仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ周辺の 防鹿柵設置作業 （高山植物守ろう）

【南信森林管理署】

六月二十三日、仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ周辺、標高約二、七〇〇m(伊那市黒河内国有林二七二林班)で南アルプス食害対策協議会の会員、南アルプス遭難対策救助隊員等総勢三十七名で高山植物等をニホンジカの食害から保護するための防鹿柵の設置作業を行いました。

設置箇所は十二箇所で総延長は一、二七m(ト)になります。

例年、山小屋に宿泊し一泊二日で行われていましたが、今年是新型コロナウイルス感染防止や豪雨等より、二日間での作業を一日で終える強行スケジュールで実施しました。

当日は、出発式の後、約三時間かけて作業場所の馬の背ヒュッテに到着しました。現地では、作業内容の説明や、作業用の靴(植生保護のため底の柔らかい地下足袋スニーカーなど)に履き替え三班に分かれて作業を行いました。



防鹿柵を設置している様子



シカによる食害の跡

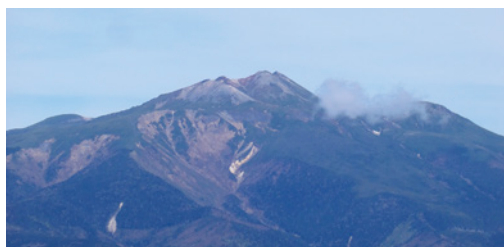
今年例年に比べ積雪も少なく雪解けが早かったことから、既にニホンジカによる食害が発生していましたが、幸い高山植物への食害は見られませんでした。梅雨の中、貴重な晴れた日に無事作業を終えることができました。今年登山客もほとんどいない中でひっそりと可憐な花を咲かせることができるでしょう。なお、十月中旬には、今回設置した防鹿柵を撤去するなど、冬支度を行う予定です。

〈各地からのたより〉

乗鞍岳開山に向けて！ 乗鞍環境美化活動の実施

【飛騨森林管理署】

六月十二日、乗鞍観光協議会、乗鞍美化の会、乗鞍雷鳥の会主催による県道五号線（高山市丹生川入口から平湯峠丹生川側）間、約三キロメートルの道路の清掃活動を実施しました。



飛騨署庁舎（高山市）から見た乗鞍岳

六月十九日の乗鞍岳開山に向けて、通行車両の安全確保と景観保全のため、協議会会員者をはじめ、環境省、飛騨農林事務所、高山市等の関係行政機関を含めて、総勢三十名で行われました。

当日は、小雨が降り、生憎の天気でしたが、二名一組になって道路両側の雑草やカーブで見通しにくい所の枝などを取り除き、汗を流しました。



県道の草刈作業の様子

今年、新型コロナウイルス感染症対策により乗鞍岳開山が一ヶ月以上延びましたが、これからの観光シーズンに向けて、来訪者が安全に訪れていたただけるよう準備を進めています。また、七月には、清掃ボランティア活動による外来種除去が行われるなど乗鞍岳の豊かな自然を後世へと受け継いでいく取り組みも行われます。

今後、こうした地域振興や自然保全活動を支援していきます。

御柱の森づくり協議会へ 林野庁長官感謝状の贈呈

【南信森林管理署】

七月二十二日、「御柱の森協議会（奥村楨人会長）」に「国民の森林づくり推進功労者」に対する林野庁長官感謝状が贈られ、その伝達贈呈式を当署において行いました。

御柱の森協議会は、平成十四年に「御柱の森」づくりに関する協定を当署と締結しました。これは、七年に一度、寅・申の年に宝殿の造り替え、社殿の四隅に「御柱」と呼ばれる樹齢二百年ほどのモミの巨木を曳き建てる諏訪大社最大の行事である「式年造営御柱大祭（御柱大祭）」で使用されるモミを将来にわたり、持続的に供給していくため、「御柱の森」（東俣国有林）においてモミの植樹、下刈、つる切り、ニホンジカなどの食害から守るための防護用ネットの設置や管理用プレートの設置などの活動を行っています。

今回、これらの取組が高く評価

されました。

南信署長から伝達贈呈を受けられた奥村会長からは、「現在、モミの木約三二五本の植栽と一、四〇〇本の御柱候補木への獣害防除ネットの設置、候補木の管理用プレートを設置しており、次回の御柱見立ても済み、日に日に氏子の気運も高まってきていることや、御柱大祭の起源は約千二百年前と言われており、更に千年後も大祭ができるよう活動を継続していきたい」と林野庁長官感謝状贈呈に対するお礼の言葉がありました。



林野庁長官感謝状の伝達贈呈式の様子

国有林と言えは現場、現場と言えは森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



〔南信森林管理署 阿智森林事務所〕
森林官 古田 義一

阿智森林事務所は、長野県南部の阿智村の阿智国有林、元嶽国有林、下條村の下條国有林、併せて一、六八〇ヘクタ、阿南町、阿智村、下條村、売木村に位置する官行造林一、〇九二ヘクタを管理しています。管内国有林は、カラマツ、ヒノキの林齢四十年生以上の人工林が主に成林し、恵那山に至る標高約一、六〇〇メートルから上部に天然林が残されています。

阿智国有林には、ヘブンス園原スキー場をはじめ、古代東山道、富士見台登山道、神坂峠史跡、恵那山登山道等の名所や観光地がたくさんあります。古代東山道は大和朝廷が大宝元

年（七〇一）に開設した道と伝えられ、険しい神坂峠を越えて岐阜県へと続き、現在は富士見台への登山道として整備がされ、約二時間三十分で山頂へ登ることができ



富士見台山頂からの眺望

富士見台の山頂は立木がなく、三六〇度のパノラマが広がり、北アルプス、中央アルプス、伊那谷、中津川方面などが一望できま



智里地区の一万本の花桃

見台の名前の由来を聞いたところ「富士山が見えるくらい高い山」とのこと、探しても富士山は見えないそうです。

また、阿智村と言えは昼神温泉郷と花桃も有名で、阿智国有林に向かう途中の智里地区で毎年四月中旬から五月中旬まで花桃祭りが開催されており、赤、白、ピンクの花桃約一万本が咲き乱れ一見の価値があります。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染症防止対策で、すべてのイベントが中止となり、とても残念



治山工事の支障木調査を行っている筆者

ですが、早く終息して平常の生活に戻ることを祈るばかりです。

■未来の担い手へのメッセージ
近年、想定外の災害が、毎年起こっています。森林整備を行うことで、山を管理し災害を少しでも防ぐことができると思います。山は季節ごとにいろいろな顔を見せます。そんな変化を肌で感じながら、森林整備に携わってきたいと考えています。

先輩方から引き継いだ山を、これからの皆さんが、次の世代へとつなげていってほしいと思います。

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



木曾森林組合

有村 将哉
(二〇一六年入組)



伐倒方法を確認している筆者

■事業の概要
請負事業・森林環境保全整備事業
(保育間伐)

発注者・木曾森林管理署
事業内容は、新高国有林九十

・七杉の列状間伐及び保育間伐です。

■現場での役割、魅力

先輩の指示に従いカラマツの伐倒を行っています。切り捨て間伐のため、選木を行い残す木と伐倒木とのバランスを考え間伐をし、後々の作業がしやすいように玉切り、枝払いを行い安全かつ効率よく作業をしています。

また、先輩方から傾斜木の安全な伐倒方法や、樹種の違いで伐倒方法を変え、木や足場を見て臨機応変に対応できるような技術などを教わりました。先輩のアドバイスや自分に合った作業方法など考えながら仕事を進めています。まだまだ半人前ですが、一人前になれるよう日々精進していきます。

■森林・林業の世界に

入ったきっかけ
幼い頃から山の中で遊んだり、山菜やキノコを採ったりして、山が身近な存在でした。中学の頃から、将来は山の中で

働きたいと思い、木曾森林組合に職場体験をさせていただき、木の伐倒や重機を使った集材を見学したことで一層山仕事への憧れが強まり、林業を学べる地元の木曾青峰高校森林環境科に入学しました。

高校三年間は、森林について勉強し、様々な資格を取得し卒業後、職場体験をさせていただいた当組合へ入組しました。

■未来の担い手へのメッセージ
林業はとても危険で大変な仕事



カラマツ間伐木を伐倒している様子

ですが、やりがいと同時に達成感のある仕事です。

また、林業は日本の木材を生産する第一次産業であり、現在では災害の防止や森林浴など、木材を搬出するだけではなく、違う観点でも森林は必要とされています。

大変な仕事ですが無くしてはならない産業です。担い手として一緒に頑張りましょう。



(朝のミーティングの様子)
「ゼロ災でいこうヨシ」で作業開始



中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれら事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



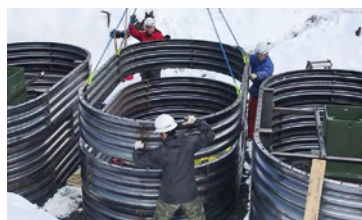
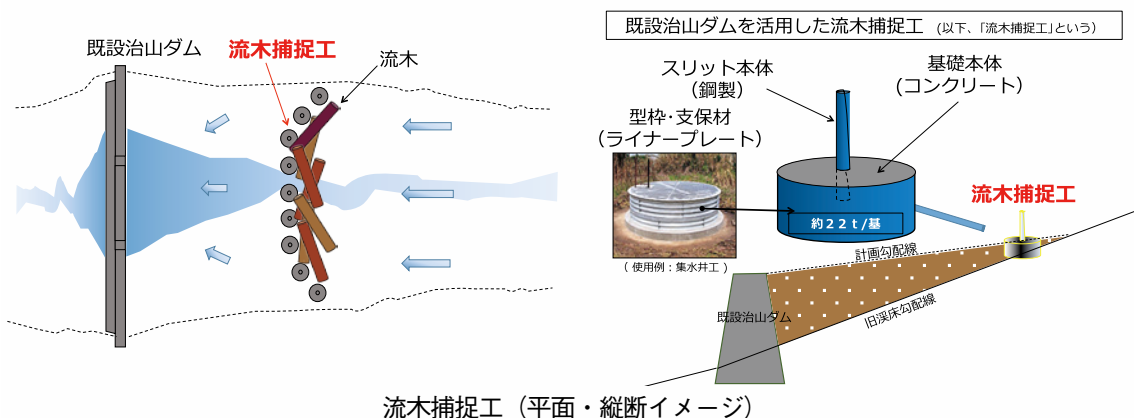
既設治山ダムを活用した流木捕捉工の開発

1. ねらい

平成29年九州北部豪雨による甚大な流木災害等の発生を受けて、より効率的に流木対策を進めるため、流木捕捉式治山ダムの新設に加えて、局管内の既設治山ダム（約1万基）を有効活用する新工法「流木捕捉工（仮称）」の開発を進めています。

2. 概要

流木を直接捕捉するスリット本体（鋼製）1本と独立した基礎本体（コンクリート）を組み合わせた「流木捕捉工」は、既設治山ダムの上流側へ複数基を横一列に設置します。施工方法は、土砂掘削を行い、縦穴を掘る際に用いる支保材（ライナープレート）を残存型枠として設置して、その中にコンクリートを打ち込み、スリット本体を据え付けて完成となります。



残存型枠（ライナープレート）の設置



設置後6ヶ月経過



従来型の流木捕捉式治山ダム

3. 成果

試験的な取組段階ですが、同等規模の従来型流木捕捉式治山ダムの新設に比べて設置費が安価（概ね-25%）で施工も容易であり、より多くの場所で流木対策が実施可能となります。また、危険な河川内での作業時間を短縮（概ね-75%）することが可能であり、作業者の安全対策上も有効と考えます。今後、モニタリングを継続的に実施してさらなる技術の向上に努めてまいります。

4. 問い合わせ先

治山課 電話 026-236-2640

お役に立ちます 国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ



国民の森林・国有林

連載

「木曾式伐木運材図会」の解説 (第四回)

中部森林管理局技術普及課 井上 日呂登



「株焼之圖」より



昭和47年2月の長野営林局広報誌より



「墨打之圖」より墨打ちをする杣

今回は「木曾式伐木運材図会」の上巻より、堅い木を伐る際に行われていた工夫と、伐倒した木への墨打ちについて紹介します。

「株焼之圖」について

大木の根元で火が焚かれていて、何だか大変な状況の絵です。昔、ケヤキなどの堅い広葉樹の大木を伐る際には、根元に穴を

空け、その中で火を焚くと木が割れにくくなるとされていました。これが、どの程度効果があったのか分かりませんが、昭和四十七年二月の長野営林局広報誌「ながの広報」には、三殿営林署（現在の木曾森林管理署南木曾支署）でのケヤキ大径木の生産の際、古事にならない根元に穴を空け、よく焼いてから伐倒したことが報告されています。

また、群馬県高崎市に伝わる江戸時代後期の絵図にも同様の場面が描写されています。この絵は「木を焼き切ってい

る場面」だと解説されることもあるのですが、少なくとも図会の「詞書」(各場面の説明文)にはそういったことは書かれていません。

「墨打之圖」について

現代でも一部の木工さんなどが行っていますが、「墨打ち」は原木や木材に、どのように切り分けるか、墨糸で線を引くことです。すべての木で墨を打った訳ではなく、時代や地域、木の種類や大きさによって異なると思われます。

伐倒した木の枝を斧で払ってから墨を打ちます。絵では平らな場所ですが、実際は斜面での作業も多かったかと思えます。墨壺から引き出した墨糸をピンと張り、打ちたいところに對して水平に矯め、指を放すと墨の痕が付きまします。

墨を打つこと自体は大きな負担となる作業には思えないかもしれませんが、木材の価値を左右する大変重要な工程であり、無駄なく、値打の高い木材が取れるような墨打ちができるようになるまでには、熟練の技が必要であり、杣の腕の見せ所でした。

※伐木作業をする労働者を昔は杣・杣夫などと呼びました。

今回は、「文六厘之圖」「御山厘之圖」について解説させて頂き

中部森林管理局では、この「図会」を保管し、それぞれの場面を切り取ったものを画像としてホームページで紹介しています。

サイトは、QRコードを読み込んでください。

なお、木曾式伐木運材図会は、一般公開は行っていません。





相倉集落 (春の風景)

富山県の南西端に位置する南砺市の山間地域「五箇山」は、白山国立公園に含まれる一、五〇〇メートル級の山々に囲まれ、冬には積雪が三メートルになる豪雪地帯です。平野部とは地理・自然条件が大きく異なるため、独特の文化を形成してきており、一級河川「庄川」の谷間



合掌造り家屋は、全国でも五箇山と白川郷及び両地域に隣接する一部にのみ見られる独特の建築様式で、その数は最大一、八五〇棟余りでしたが、戦後の経済発展と

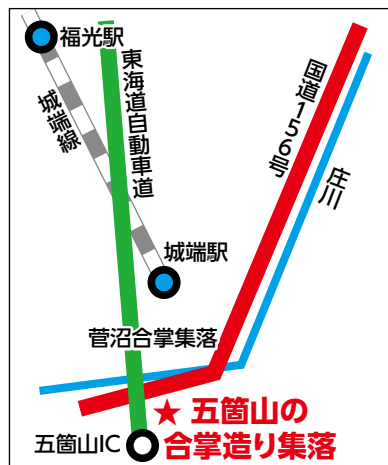


菅沼集落 (秋の風景)

に沿って四十の集落が点在しています。そのうちの相倉集落と菅沼集落が一九九五年、岐阜県の白川郷荻町集落と共に、日本で六番目となるユネスコ世界遺産に登録されました。特徴的な合掌造り家屋群を中心とする農村景観と今尚そこに残る人々の暮らしが、世界的に価値のある貴重な文化遺産であると評価されました。

生活の近代化の中で急激に減少し、現在では白川郷と五箇山で二百棟以下となり、一棟一棟が大変貴重な存在となっています。現存する合掌造り家屋は約百年から二百年前のものが多く、古いものは四百年前にもなります。合掌造り家屋の建築様式が完成したのは江戸時代中期で、その頃五箇山では、養蚕の他、火薬の原料となる塩硝や和紙の製造が加賀藩から奨励され、こうした仕事に適した高層の建築として発展したと考えられています。一階は居住と塩硝の生産や紙漉きが行われ、二階以上は養蚕のための広い作業空間でした。一階の囲炉裏から昇る熱気は、蚕室を暖め、煙が木材や茅葺屋根を燻すことで長持ちさせました。合掌造り家屋は、最も発達した合理的な民家形式の一つであり、日本の木造文化を代表するものです。「合掌」は、仏を拝む時の姿に由来し、まるで天に向かって手を合わせるような合掌屋根が、五箇山の暮らしを守ってきました。外の世界から閉ざされた雪深い五箇山の冬。合掌造り集落

生活の近代化の中で急激に減少し、現在では白川郷と五箇山で二百棟以下となり、一棟一棟が大変貴重な存在となっています。現存する合掌造り家屋は約百年から二百年前のものが多く、古いものは四百年前にもなります。合掌造り家屋の建築様式が完成したのは江戸時代中期で、その頃五箇山では、養蚕の他、火薬の原料となる塩硝や和紙の製造が加賀藩から奨励され、こうした仕事に適した高層の建築として発展したと考えられています。一階は居住と塩硝の生産や紙漉きが行われ、二階以上は養蚕のための広い作業空間でした。一階の囲炉裏から昇る熱気は、蚕室を暖め、煙が木材や茅葺屋根を燻すことで長持ちさせました。合掌造り家屋は、最も発達した合理的な民家形式の一つであり、日本の木造文化を代表するものです。「合掌」は、仏を拝む時の姿に由来し、まるで天に向かって手を合わせるような合掌屋根が、五箇山の暮らしを守ってきました。外の世界から閉ざされた雪深い五箇山の冬。合掌造り集落



◆所在地
相倉合掌造り集落…富山県南砺市相倉
菅沼合掌造り集落…富山県南砺市菅沼
◆アクセス
【公共交通】JR城端駅発世界遺産バス
白川郷行き 相倉…約二十五分、菅沼…約四十分
【自動車】東海北陸自動車道五箇山ICから 相倉…約十五分、菅沼…約二分



菅沼集落 (冬のライトアップ)

新シリーズ

地域と繋がる国有林

森林・林業・木材産業等において、地域で活躍されている様々な取組をご紹介します。

第1回

多様な森を多様なままに、

守って活かすムラづくり

TOGA森の

大学校が開校しました



TOGA森の大学校
理事 江尻 ひろし 裕
えじり ひろし 裕



樹木学実習 (栃谷の溪畔林にて)
R2.5.24

一九九九年、家族で現富山県南砺市利賀村に移住した私は、先輩たちから山仕事を教わりました。その後、高性能林業機械での利用間伐が開始されましたが、積雪三メートル超、スギの通直材生産では収益が期待できず…。一方ブナやミズナラの二次林は人の手を借りずに立派に生育。「これだ！」と直感し、妻と起業。クロモジ出荷を機に多様な資源による複合的な林業の可能性を見出し、そのためには利用法、生育特性など個々の資源の情報が重要であると実感。利用と保全を両立させる「環境林業」を模索しています。

地域では人口減少が加速、基幹産業のスキー場も廃止され、活性化を模索する中で、「環境林業」を担う人材育成「TOGA森の大学校」を構想し、平成二十八年に南砺市の地方創生事業として採択されました。

地域の森林に精通して生態系保全と収益性を両立させているスイスのフォレストスター、ロルフ氏の招聘など、設立への議論・短期講座の試行を経て、紆余曲折はありましたが、地域の人に支えられ、南砺市からは施設整備・備品等の支援を受け、平成三十年、一般社団法人TOGA森の大学校が設立できました。



「利賀の山は宝の山」地域の達人から山菜料理について受講 R2.5.24

そして、今年度、定員を上回る八名の受講生とともに正式開校となりました。「森の暮らし塾」を通じた人材育成を中心に、地域の森林・林業に対する技術支援、ボランティア活動等も推進していきます。

「塾」では、森の仕組みと働き、



森林調査実習 R2.6.27



刈り払い機安全講習 R2.6.26

百姓の暮らしとエコツアー、山の道具と森林調査、自伐型林業、特用林産物と工芸、更新、狩猟、木材利用、雪を活かす暮らし等を学んだ上で、自分なりのプランニングを行っていただきます。

基礎から応用、伝統から最新へと、幅広く技術を習得し、経験を積み重ねていただける場にしたと思います。今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※TOGA森の大学校の詳細については、以下のQRコードを読み込んでください。



各地からの花だより

中部局管内には、たくさんのお花の色とりどりの花が咲いています。ここでは、各森林管理署等で、現場へ調査等に行った際に撮影した、今が旬の花を紹介させていただきます。

また、自然保護の観点から撮影場所を掲載していない場合もありますが、ご理解の程よろしくお願い致します。



センターに写っている「イワショウブ」お花畑の1コマです！(飛騨署)



富山署 ネムノキ



富山署 チシマギキヨウ



富山署 シコタンソウ



南信署 ネジバタ



東濃署 オニシモツケソウ



木曽ふれあいセンター ホタルバクロウ



木曽ふれあいセンター ヤマオダマキ

編集長だより

(中部の森林への投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

令和2年7月豪雨被災地の皆様へ心からお見舞い申し上げます。

中部森林管理局では、いつでも気軽に自宅で森林や自然の風景を楽しむことができる「デジタル森林紀行(愛称: デジ森(もり))」を8月から、グランドオープンしました。1か月間の仮オープンを得て、「中部の森林(もり)色々(いろいろ)」に掲載画像を充実させました。さらに、デジ森の裏サイトも開設しました。(右のQRコードで、3つのうちのどれかです。内容は、見てからのお楽しみ!)

ぜひ、「デジ森」へお気軽にお越しください。

デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



☆デジ森! 今月の広報主任官のお勧めサイト!

どんなお勧めのサイトかは、以下のQRコード読み込んでからのお楽しみ!

また、3つのQRコードの中には、過去へタイムスリップするデジ森の裏サイト「モノクロ森林紀行」があります。

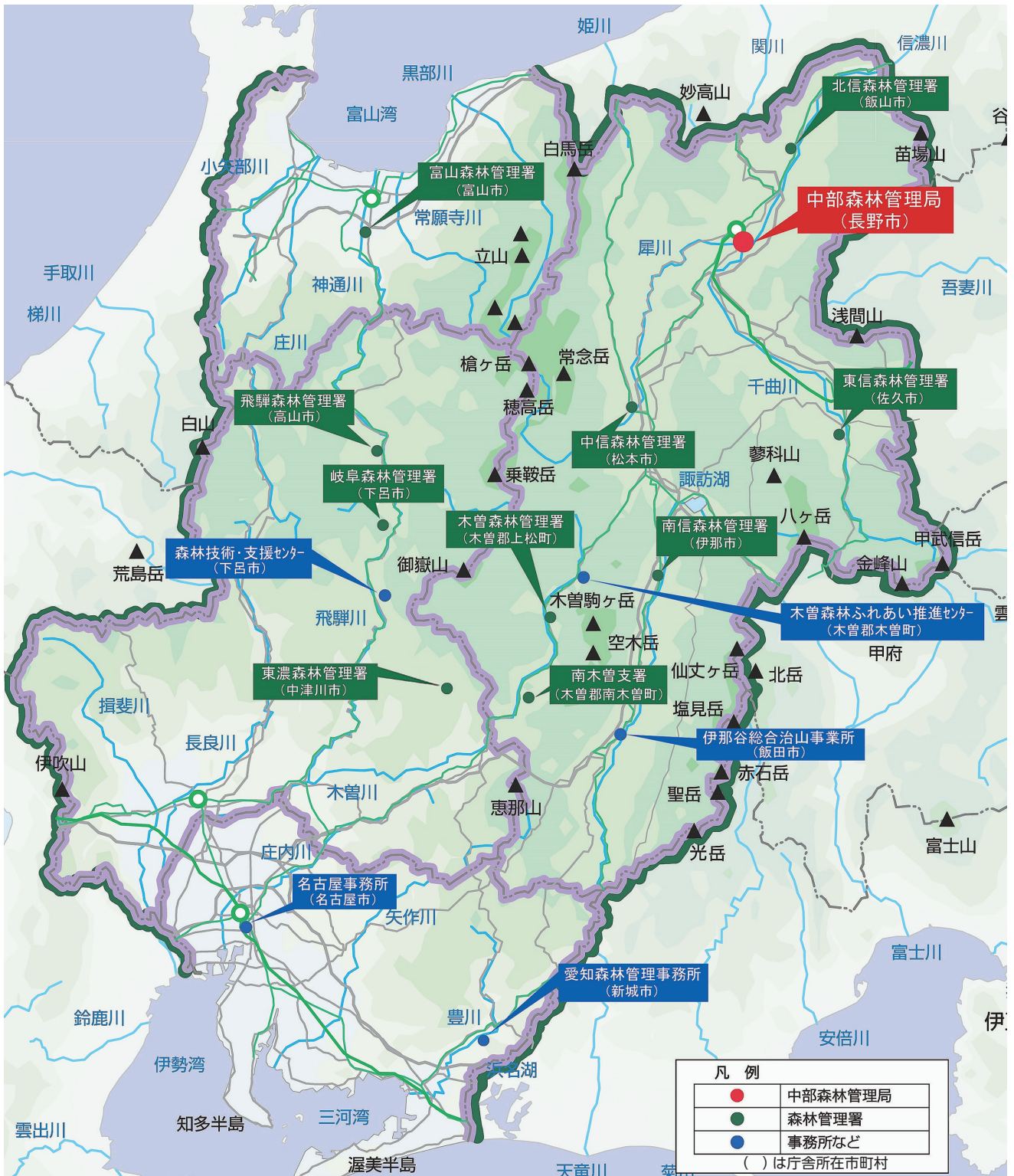
何かなあ

何だろう



!(^^)!

(*A_A*)



お問い合わせ先 中部森林管理局 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5 TEL 050-3160-6507 (代表) TEL 026-236-2721 (夜間・休日) FAX 026-236-2657

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曾支署	〒399-5301	長野県木曾郡南木曾町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149